

空手道と自己の成長

鈴木 巽

私は父親のすすめで五才の時、空手を始めました。最初は、空手がどういうものなのかあまり分りませんでした。何日か道場に通ううちに、段々楽しくなってきた。でも、楽しいからとふざけて友達と遊んでいると、父親によく怒られました。父親からは、「道場は神聖な所であり自分の技術や精神を高めていく場所」という事を教わりました。

空手と始めてから半年たつ頃に、初めての昇級審査を受けました。道場で学んだ事、家で練習してきた事などそのまま出し切り、結果は飛び級でもうれしかったです。

これからもがんばろうと思ひ練習にはげみよした。増田道場の交流試合に初めて出場した時は、青帯の時でした。初めての大きな試合ごとでもきん張りました。結果は一回戦で負けに終わりました。何が何たか分らないまま、くやしいという気持だけが残り終わってしま

いました。よく日から、その時のくやしき
持ちをバネにして空手の練習の他、なわ飛び
といゅうなんのトレーニングも始めました。
二度目の試合では、その努力の成果を発
する事ができ、準優勝できました。勝つ事
ができたという喜びと、努力すれば、必ず
成果が出るという事を改めて感じました。
それから、日々の練習やトレーニングには
げみ、次の試合では優勝し、次の試合
も優勝する事ができました。その後からは、

三ドルクラスに出場するようになり、空
手がますます面白くなってきたので日々
のトレーニングを欠かさず続けてきまし
た。しかし、三年生の終わり頃から優
勝できなくなりました。自分が何が足
りないかという事を考えました。自分
に足りないものは、他の人に負けない
練習量と、何事にもめげない強い心
だと思いました。それから練習には朝
のロードワークを始め、強い心を作る
ために他の道場の交流試合にも

参加するようになりました。色々な交流試合に出場する事によって、空手の世界が広がりました。自分よりも、と強い人がいるという事を知りショックを受けました。でも、反面自分ももっと強くなりたいという目標を持つ事ができました。今までの様に優勝はなかなかできな

いかもしれません。これからも色々な経験を積んで努力していきたいと思います。茶帯に昇級してからは、年下の道場生を教える事が多くなりました。自分の小さい時の

経験から、口教える事の大切さ、という事が良く分かる様になりました。

空手とは、強くなる事だけではなく、互いに高め合って成長していく事が大切だ、という事が分かりました。私は黒帯を目標に立身をがんばってきました。黒帯を締める自分の姿を想像すると、照れくささもありませんが、下の子たちの見本とならなければいけない、という気持ちもあり、自分が引き締まる思いです。昇段して黒帯をもらうという事は、自分にと

ってゴールではなく、次の空手道へのスター
トラインに立つものだと思っています。
自分にとっての空手道とは、
やさしく指導ができる大切さ、
何事にも負けない強い心
努力すればできるという自分に自信を持たせ
てくれる存在です。

押忍